

東由利村報

No. 124 1967・11・1

発行
秋田県東由利村役場
発行日
毎月1日(1部5円)
印刷
KK本間印刷所
昭和42年7月21日
第3種郵便物認可



写真は、交通安全バレード
老方小

村議会協議会

定時制分校建設など

10月14日、村議会協議会を開いて当面するいろいろな村の問題の解決について話し合いをした。

○定時制高校下郷分校 校舎の建設

小松分校主任より、校舎敷地予定地・校舎平面図・生徒推移表・建築に関する資料等を提示しての詳細な説明が行われた。

この工事費は外部工事を含めて20,694千円、村負担額はその20%400万円余であるが小中学校と総合的に検討しなければならないので、敷地はよく調査して更に慎重に検討の上に決定することとし、今会は県に対し明43年度中建設の陳情書を提出することに決定した。

○家畜導入事業(貸付牛)

- 1 目的
イ酪農および肉用牛の主産地をつくる。
ロ乳用牛および肉用牛資源の維持拡大。
ハ酪農経営および肉用牛経

営の発展をはかる。

- 2 この事業は秋田県草地公社が行なう。
- 3 貸付牛は、搾乳の用に供する乳用の雌牛と繁殖の用に供する肉用雌牛。
- 4 家畜の導入を受けることの出来る者。

イ乳用牛

農家で現在1頭以上5頭以内の雌牛を飼養し5カ年で6頭以上になること

ロ肉用牛

農家で現在1頭以上3頭以内の雌牛を飼養し、5カ年で4頭以上になること。

5 導入頭数

各々1セット50頭とす(市町村)1年間に1戸2頭以内。

6 事業費

イ乳用牛にあつては1頭9万円、肉用牛では1頭10万円とし、その額を越える場合は自己負担とす。
ロ市町村は1頭につき8千円の負担金を草地公社に

納入すること。

協議の結果

本村畜産の将来を考え、ぜひこの制度を取入れて行きたい。特に来年からは、家畜市場が本荘市1カ所にまとめられることになるので、東由利和牛の名声を益々高めて行くためにも、この制度を活用して、優良牛を導入する必要があるので事業の受入れを決定した。

○倉部落電気導入事業

事業費概算、76万1千円以内、国県補助金は30万円、融資12万円、残額34万1千円外に設計費2万円となるので、従来は工費の1割程度の村補助をして来たが、それでは僅か3戸の部落では負担が重すぎるので、部落負担は10万円とし、あとは村で補助して導入してやることにした。

○報告事項

1 上里橋工事入札

始めの設計では橋の幅が、3・6mであったが、4mとすることになった。

請負契約、下部工大沼建設、338万円、上部工秋田市管長竣工期限、12月20日

2 農業構造改善関係

長根谷地草地

隔障柵350m 90万円、追込舎監視舎86万円、佐藤徳市飲雑用水工事40万円佐々木直松。牧道1,600m 柳沢利一。

3 田代地区桑園事業(42年度桑園造成6,18ha

事業費340万円

桑植栽(苗木共)170万4千円、計530万4千円

県補助215万6千円、公庫融資136万円、自己資金63万3千円。

4 本年度土木事業現況

42年度事業57カ所

内未発註11カ所

原材料費残額

砂利、4,163立方米

一般土木費20万円

林道土木費90万円

未発註箇所

路線名	場所	工種
-----	----	----

- | | | |
|-----------|----------|------|
| 1 向田線 | 向田暗渠継足工事 | |
| 2 法内 | 針ヶ台下水路 | |
| 3 ザッコ又滝ノ下 | 道路改良 | |
| 4 新町線 | 西ノ浜 | |
| 5 館合 | 西久保 | |
| 6 湯出野 | 山谷橋 | 上部修理 |
| 7 蔵上里 | 石田坂橋架替工事 | |
| 8 新沢 | 矢畑 | 護岸 |
| 9 牧山川 | 寺田 | 災害復旧 |
| 10 祝沢川 | 日照坂 | |
| 11 湯出野線 | 湯出野 | 法止工事 |
- 牧山川災害復旧工事については、来春本格的に実施する。

(前) 村長阿部直一郎氏

秋田県農業会議副会長 に推選さる

秋田県農業会議では、去る10月18日の総会で、かねて欠員中の副会長を決定するにあたり、満場一致をもつて東由利農協組合長阿部直一郎氏を推選した。

会長長谷山行毅氏は、全国農業会議所会長をかねているので上京不在の日が多く、純農家出の副会長を選んだことは、期待も大きく、今後の運営が注目されている。

第5回臨時議会

10月20日臨時議会を招集、次の議案を原案どおり可決した。

第1号、東由利村国民健康保険条倒の一部を次のように改正する。「第7条の2」を削る。

治療費は病気がなおるまで7割を村で給付することをきめた条項であるが、法律でそうきまったので不用になった

第2号、村有財産の処分について

黒沢林道開設のためにつぶれた、阿部フサヨの田のかわりに、三階滝の原野を交付す。

第3号、教育委員会の委員の任命につき同意を求めること

教育委員会の委員一名が、

9月30日をもって任期が満了したので次の者を任命したい

館合字 竜ノ沢 佐藤松之助

第4号、玉米財産区管理委員の選任につき同意を求める

佐藤与吉郎・小松与惣雄・渡辺与七・鈴木直蔵・八嶋与四三・佐藤文一郎・横山広一

○村長報告事項

1 民生委員任命

五海保・久保・板戸・担当 大庭六治郎

島・宮ノ前担当畑山マサエ

2、太平工業受入れ打ち切り

会社側の要望する敷地のことで話がまとまらず、県の意向もあるので今回は打ち切った。

N H K 視 聴 者 懇 談 会



N
H
K
幹
部

10月13日午前10時から、役場でNHKの「視聴者懇談会」が開かれた。

NHKからは、秋田放送局長今井良作・営業部長伊藤慶吉・放送部長岸野政一・技術部長猪股武治氏外2名が来村、村内よりは放送に深い関心を持つ方々23名が出席した。

放送局長あいさつ

NHKは公団でも営利会社でも国の機関でもなく、全く純正中立の立場からよい放送を皆さんにお届けしたいと、不断に努力しています。

どうかお気づきの点を卒直におのべになって、ご協力下さいますようお願いします。

話しあい

話し合いは卒直な意見要望

に対し各部長より、懇切丁寧な回答あり高水準の内容をもって進められた。

1 番組時刻について

生活時間に合せられないか・夏と冬とで時刻をかえられないか・ローカルの時間をふやされないか。など、

答、全国放送である、全国民に満足してもらわなければならないので、部分的には多少不便をしのんでもらわなければならないところが出て来る

2 番組内容について

連続ドラマなどの内容が上層階級にかたより過ぎる。

ローカルニュースだけでも県内の出来事の現地放送が出来ないか。

答、近く中継車が出来てくる

ので、ご希望にそえる。

受信の悪い場合の30%はアンテナの不備である。

田代のようにテレビのよく見えないところでは共同アンテナを設けるがよい。その場合は技術と工費の援助をする

おわりに（局長）

こういう会合はNHKとして年間500回以上も開いて放送に反映させています。

本日は身にしみる適切なご意見を承わって深く感謝します。今後一だんと放送の改善に努力いたします。

水稻多収穫集団 入賞きまる

「東由利村水稻多収穫集団表彰規定による競作は、21集団の参加によって行われた。

最終審査の結果は次のとおりである。最高の蔵新田増産班の田圃は島構造改善地区であることは注目に価する。

なおこの表彰式は、代表集団の体験発表をかねて、1月上旬に行う予定である。

水稻多収穫審査成績

Aブロック、目標収量660kg

順位	集 団 名	収 量	
1	蔵新田増産班	751.59	○
2	須郷田農事組合	705.72	○
3	岩館増産班A	675.87	○
4	時雨山農事組合	672.87	○
5	久保〃	657.06	
6	田代〃	654.27	
7	岩館増産班B	649.62	
8	真木田グループ	630.87	
9	上 通 5 石 会	613.98	
10	下吹グループ	607.47	
11	黒淵農事組合	596.34	
12	家の下〃	575.55	

Bブロック、目標収量 600kg

1	松柴農事組合	666.36	○
2	葦沢高塩組合	655.20	○
3	袖山農事組合B	647.76	○
4	葦沢〃	623.28	○
5	袖山〃 A	621.48	○
6	葦沢野良組合	617.78	○
7	館合新田組合	610.32	○

Cグループ 目標収量 540kg

1	板戸農事組合	567.18	○
2	新沢〃	538.20	

○印目標達成、収量10a当

妊産婦の健康管理

このたび母子保健のもととなる妊産婦の健康管理を推し進めるため、妊婦の早期はあくの方法として県医師会の協力を得て、医師が記載する妊娠証明書の発行をこれまでより、約1カ月早めて、妊娠4カ月以内に行うことになりました。

これに伴ない行政庁においても、母子保健法第15条第2項の規定に基づき、市町村長から保健所長に報告する、いわゆる妊娠届出報告書月報を旬報に改めることにしましたので、下記に留意のうえ、この取扱いに遺憾のないようにして下さい。

記

1 この旬報は、昭和42年10月1日より施行するものであること。

2 妊娠の届出を早期に行なうよう、住民によく知らせること。（県厚生部長通知）

○

秋田県では、昨年から全国にさがかけて「不幸な子どもを生まない運動」を行なっています。

これによると、妊娠後3カ月の頃は、身体各部分が出来始める時で、睡眠薬の毒素によってアザラシ子（肩から手のはえた腕のない子）が生れた例もあり、疲労素や便秘による毒素なども脳や身体が発育に大きな影響を及ぼし、不具者や精薄児の生れる原因となる。

早く届け出て母子共に健康を保つようにしましょう。

事務所移転お知らせ

このたび、本荘自動車検査場の移転にともない協会事務所も本荘市石脇田尻29番地へ移転いたし10月5日より業務を開始いたしております。

何卒倍旧のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

（社団法人本荘自動車協会 由利地区自家用自動車協会）

米の出荷急ピッチ倉庫はどれも満腹

豊作と天候にめぐまれて、おり、農業倉庫はどれも一杯米の出荷は急速に進められて である。



昨年の10月末の入庫数は、3万6千俵であったものが、今年はずでに別表のとおり6万7千俵をこえ、内上位米が97%も占めている。なお最終的には昨年の6万8千俵を軽く引きはなして7万5千俵をこえるものと予想されている。

昭和42年度産米検査表 10月26日現在

地区	検査総数	等 級 内 訳						
		1	2	3	4	5	外上	水甲
玉米	29,581	351	15,827	12,279	715	302	105	2
下郷	37,539	46	15,058	20,982	1,247	206		
計	67,120	397	30,885	33,261	1,962	508	105	2

予約数量 玉米地区27,944 下郷地区36,907 合計64,851

小作料の最高額の基準の改正

現行小作料は昭和30年に定められたものであるが、最近の経済の高度成長に伴い、統制小作料の改正を要望する声が高まり、農林省も本年度9月より実施することに決定し、8月25日付省令第38号をもって農地法施行規則の一部を改正する省令を公布、9月1日から施行されることになった。今回の小作料改訂によると10アール当り1級農地で小作料の最高基準は田で4倍の5,688円（現行1410円）畑は2.5倍の2,170円（現行861円）となる。

農林省が小作料を引き上げることにしたのは、30年の改訂以後、農産物の生産条件や価格条件などが変わって、現状に合わなくなったためであるが、直接のきっかけは、今年

の生産者米価決定のとき、自作地代の評価を実納小作料なみにみることにしたためであり、これは10アール当り平年収量による粗収益から生産費と利潤を差引いた残りを地代とみなす方式であるが今回の改訂では平均生産費を採用している点が異なっている。具体的な算定にあたっては、42年の推定収量と42年産米政府買上げ価格による粗収益から41年生産費調査にもとづく生産費と利潤を差引く方法で算定している。

改訂小作料の最高額の基準は次表のとおりであるが、これはあくまでも小作料の最高限度額を定めたものであるから、個々の小作契約に基づく小作料の額は、それぞれ当該契約当事者の合意によってのみ変更されることになるのでとくに注意しなければならない。

改訂小作料最高額の基準

(10a当り)

農 地 等 級	田 の 部		畑 の 部	
	改 訂	現 行	改 訂	現 行
1 級	5,688円	1,410円	2,170円	861円
2 級	5,444	1,350	2,073	822
3 級	5,204	1,290	1,973	783
4 級	4,960	1,230	1,875	744
5 級	4,720	1,170	1,778	705
6 級	4,476	1,110	1,680	666
7 級	4,236	1,050	1,580	627
8 級	3,992	990	1,483	588
9 級	3,752	930	1,385	549
10 級	3,508	870	1,285	510
11 級	3,268	810	1,188	471
12 級	3,024	750	1,090	432
13 級	2,784	690	990	393
14 級	2,540	630	893	354
15 級	2,300	570	795	315

昭和42年度葉たばこ品評会受賞者

10月38日行われた葉たばこ品評会受賞者次のとおり。

1等賞

工藤調記、遠藤松三郎

2等賞

阿部正雄・畑山文一郎・長谷山長四郎・佐藤長治郎・小松イチ

3等賞

佐藤徳一郎・小松イサオ・小野菊治・阿部専蔵・小松良蔵
阿部フミヨ・遠藤フサヨ・小野一郎・高橋次男・鈴木昭三
嶺石春雅・小野与一郎・佐藤正一・畠山雅明・長谷山久一

葉たばこ耕作組合に朗報大幅増及

たばこは有利で安定した副業であるが、それだけに増反は極めて困難である。

今回専売公社より増田出張所に若干の増反割宛があったので、会長役員の猛運動によって大幅に3haの増反配分を認められた。

これによって本村組合は、耕作面積18haという有力組合となった。

これを機会に昨年の収納実績1250万円を、2千万を目標

にがんばろうと組合員一同張り切っている。

なお組合員外の方でも希望者は、地元役員に申し込んでください。

みんなのあなたのための献血

10月27日東由利村献血推進協議会では、日赤事務局長・本荘保険所長をむかえ、村内からは献血グループの代表者が集まって献血推進の協議会を開き次のようなことをきめた。

1 今年度第1回献血の日時、場所の決定（部落長へ通知する）

2 献血を推進するために、イ献血は一時的なものでなく、永久的事業であることをみんなに知らせる。

ログループをふやして献血する人を確保し、その力によって仲間をふやす。

ハ献血は他人のためでなく、自分のために健康な時に血液をたくわえておくこと。献血は無害であることを理解させて、献血者をふやすことにつとめる。

なお我が村の献血成績は、本荘市由利郡内では優秀で関係者から感謝されている。

秋の交通安全運動

この運動は村が主体となり、保育園・小中高校・青年会・婦人会・部落会・交対協などを一体とする総合計画をたてて実施した。

各学校では、講話・車体検査・交通教室・街頭指導・ポスター掲示などを行つた外、玉米中では、3カ所に一時停

止標識をたて、老方小では鼓笛隊による交通安全パレードを行った。

横小路・新町・蔵新田・大琴部落では、親達が期間中交替で街頭指導を行った。

交対協では事故死亡者の遭難現場2カ所に霊慰標をたてて冥福を祈った。



慰霊標をたてる・山崎

祝沢分校に テレビ寄贈

祝沢小学校のテレビは、昭和35年11月に2万円の村補助を受け、PTAが拠金して購入したもので、それから7年になろうとしており、とうにじゆ命がつきて困っていたところ、このたび東京電業社長小野仁助さんが、東芝テレビ一台を寄贈して下さったので早速これを取付け、児童職員はもとより部落民一同も心からその好意に感謝している。

第3次結核検診

10月25日(旧下郷地区)26日(旧玉米地区)の2日間、結核予防協会の検診車が来て、今年3回目の結核検診を、1回目にも2回目にも受けなかった人たちについて行った。結核を予防しさらに進んでこれをなくすためには、ただ一人でも検診を受けない者があってはならないと、こうして忙しい中を何回も検診に来てくれるのです。

村民の皆様にはこのことをよくお考えになって一度で検診のすむよう協力下さるようお願いします。

読者だより

栃木県小山市間々田町在住の大家隆君から次のようなおたよりをいただきました。隆君は老方小野治郎蔵さんが実家です。

○

本年もいよいよ実りの秋を迎える頃となりました。

郷里の皆様、役場の職員の皆様には、益々ご健祥のことと存じあげます。

今年も早いもので、秋の気配を、そぞろにすだく虫の音にもおぼゆる昨今です。さて旧友へのお願いかないまして郷里の村報をいただくようになりまして、はや三カ月がすぎました。6月1日号から郷里の出来事のあらましが、手にとるようにわかるようになり、郷里との距離が近くなったように感ぜられます。

郷里をあとにして15年、昔のことばにして一昔半、昨今

は帰郷しましても、全く世代の交替により、若々しい時代の人々がたくましく成長されておりまして、誠に感無量におぼえます。

7月号8月号と手にしまして色々と郷里のことを知らせていただくことが出来まして深く感謝しております。ほんとうにありがとうございました。おくれ走せながら厚くお礼申し上げます。

この間の社会人野球大会の結果は如何でしたでしょうか。次号を楽しみにしております。郷土誌夜話やら短歌やら毎月村報をいただくのが待ち遠しい次第です。

何れ何回かまとまりました折には一冊にまとめて郷土史として保存されますようお願い申し上げます。

おくれ走せながらとりあえず一言お礼まで申し上げます。

…国民年金に加入して

ない方がいませんか…

11月は「国民年金普及月間」です。

国民年金は、厚生年金や共済組合などの年金制度に加入できない人達のためにできた年金制度で、日本国内に住む20才～59才までの日本国民は

在宅脳卒中後遺症患者の機能訓練学級

9月30日老方小学校で開かれた。

訓練によって三分の一が回復する。

あたってからの1～2年が

かならず加入しなければならないことになっています。

昨年の改正で、年金給付の額が大幅に引上げられ、老令年金について見ると、25年保険金を納付した場合で従来の年金額2万4千円が6万円に増額されました。

通算老令年金・障害年金・遺児年金・寡婦年金は、すべて老令年金の額の計算方法によりますので同様に増額されました。

訓練には最も大事。

風呂の中でもむのが最もよいから湯治して訓練することをおすすめる。



訓練学級

とり入れ

山田礼智

夕暮れの野道に立ちて
古い人は頬ほころばせ豊作を言ふ
稲架の手を休めて語る
老人の笑顔に夕べの陽はかたむきぬ
早場米を高く積みたる自動車は
おもおもとわれを越して行きたり
とり入れを楽しむごとく
うからは夕食済ませ作業場へ行く
ちちははの秋のとり入れを手伝ひし
少年の日の遠き思ひ出